

3月18日、東京大病院で、新型コロナウイルスの初回のワクチン接種を受けました。以前、書いたとおり、翌朝から打った左肩が痛み始め、翌日午後ピーク（非常に痛かった）で、2日目には消えました。

4月8日に2回目の接種を受けました。注射したところの痛みは前回ほどではありませんでしたが、翌朝からだるさがあり、体温を測ってみると38℃以上ありました。

風邪とちがって、せきやどの痛みなどは一切なく、ただ体温だけが上がっている状態でした。幸い、その日の夕方には平熱に戻りました。

国内で接種1回目を受けた約1万9千人と、2回目を終えた約1万6千人分を対象に

## がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

初回のワクチン接種で、体内には新型コロナウイルスが持つ突起状のスパイクたんぱく質を攻撃する抗体ができません。そこに2回目の接種で、同じたんぱく質が体内で増えると、最初の時よりも強い免疫反応が起こり、副反応も強く出ます。

療により白血球が減少し、感染から熱が上がるケースが多いとされます。しかし、感染がなくても、私のように、他に症状がないまま、体温だけが上がる「腫瘍熱」が問題になることがあります。

腫瘍熱は、がん自体が産生する発熱物質(サイトカイン)や死んだがん細胞から放出される物質による免疫反応などが原因とされます。

一言で言えば、がんに対する一種の免疫反応。ワクチンによる発熱に近い現象と言えるでしょう。

私が経験した「半日限りの高熱」とちがって、腫瘍熱は長く続きます。患者を苦しめるやっかいな症状の一つです。

(東京大学特任教授)

## がん患者を悩ます発熱

した調査の結果が公表されています。

1回目の接種後に37・5℃以上の発熱がみられたのはたった3・3%にすぎません。しかし、2回目接種後

は38%にも上がっています。私のような38℃以上の発熱も21%にみられました。なお、若い女性で頻度が高く、20代女性の2人に1人が37・5℃以上の熱を出しています。

この発熱は、がん患者の約7割にみられる症状です。治

療により白血球が減少し、感染から熱が上がるケースが多いとされます。しかし、感染がなくても、私のように、他に症状がないまま、体温だけが上がる「腫瘍熱」が問題になることがあります。

(東京大学特任教授)